

平成15年度リンゴ関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成15年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成16年2月3日(火)にホテルメトロポリタン盛岡において開催された。

この検討会には、試験場関係者35名、委託関係者19名ほか、計60名の参集を得て、除草剤1薬剤(8点)、生育調

節剤11薬剤(60点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成15年度 リンゴ関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] 処理時期 ; 薬量g・mL<水量L>/10a ; 処理方法等	判 定	内 容
1. AH-01 液 (S)-2-アミノ-4-[ヒドロキ シ(メチル)オキシイニル]ブタン 酸ナトリウム塩 10.5% [明治製菓]	リンゴ	適用性 継 続	青森りんご試験南 栃木農試 長野南信農試 (3)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ; 300mL<100, 150L> 500mL<100L> ; 茎葉処理 対)ハース液剤 300mL<100L>	実 継	実) [リンゴ: 雑草全般] ・ 春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・ 一年生雑草対象: 300～500mL/10a 多年生雑草対象: 500～750mL/10a <100～150L/10a> ・ 茎葉処理 (継) ・ 効果の確認 ・ 薬害試験
		適用性 継 続	青森りんご試験南 栃木農試 長野南信農試 (3)	[多年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ; 500mL<100, 150L> 750mL<100L> ; 茎葉処理 対)ハース液剤 500mL<100L>		
		薬害 新 規	宮城農総研 富山農技果試 (2)	[薬害試験] 春期→初夏→夏期 ; 2000mL→2000mL→2000mL <100L> ; 土壌処理 夏期 ; 5000mL<100L> ; 土壌処理 春期または夏期 ; 133倍(750mL<100L>) ; 樹幹処理		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 :薬量g・mL<水量L>/10a :処理方法等	判 定	内 容
1. AF-1 マイクロアセ ル-メチルプロパ ン [アグロフレッシュ(ロ-ム ントハ-スジ・キハ-ン)]	リンゴ	適用性 継 続	青森りんご試 青森りんご試県南 長野果試 (3)	[貯蔵性向上] 収穫当日、2、4、6日後 ; 1000ppb ; 果実を密閉容器に入れ、12~24 時間暴露	実・ 継	実) [リンゴ: 収穫果実の貯蔵性向 上] ・ 収穫直後~6 日後 ・ 1000ppb (2.24mg/m ³) ・ 水に入れて発生する気体に密閉 条件で12~24 時間暴露 注) 品種によっては処理時期が 遅れると効果の劣る場合があ る。 継) ・ 果実品質への影響について
2. CS-11H イタコン酸 95% [白石カルシウム]	リンゴ 水溶	適用性 継 続	青森りんご試 岩手農研 秋田果試 石川農総研 長野果試 (5)	[摘花] 頂芽中心花満開 2 日後およびそ の 2~3 日後 ; 200, 250, 300 倍 ; 枝別散布 対) 石灰硫黄合剤 100 倍	実・ 継	実) [リンゴ(ふじ): 摘花] ・ 頂芽中心花満開 2~3 日後及びそ の 2~3 日後 ・ 200~250 倍 ・ 立木全面散布 継) ・ 品種と効果の確認 ・ 葉害の確認
3. CS-12F 炭酸カルシウム 80% [白石カルシウム]	リンゴ 水和	適用性 継 続	岩手大学 青森りんご試 岩手農研 秋田果試 長野南信農試 (5)	[果皮障害軽減、生理障害軽減] 落花10日後から7~10日間隔 5 回散布 ; 200 倍 ; 枝別散布	継	継) ・ 効果の確認
4. KC-1129 蟻酸カルシウム 98.3% [見栄化学工業]	リンゴ 水溶	適用性 継 続	北海道中央農試 青森りんご試 岩手農研 秋田果試 山形園試 石川農総研 群馬農技中山間地 長野果試 長野南信農試 (9)	[摘花] 満開時及びその 2~3 日後 ; 100, 150 倍 ; 立木全面散布または枝別散布 対) 石灰硫黄合剤	実・ 継	実) [リンゴ: 摘花] ・ 満開日 追加散布を要する場合は2~3 日 後に1 回 ・ 100~150 倍 ・ 立木全面散布 継) ・ 処理濃度と葉害の検討 ・ 散布時期と効果の確認
	リンゴ	適用性 新 規	岩手農研 秋田果試 長野果試 (3)	[日持ち性、貯蔵性向上] 落花直後から10日間隔 5 回散布 ; 1000 倍 ; 立木全面散布または枝別散布	継	継) ・ 効果の確認
5. MAE-30 水和 既知化合物A 60% 既知化合物B 18% [丸尾カルシウム]	リンゴ	適用性 新 規	岩手農研 宮城園試 秋田果試 福島果試 長野果試 長野南信農試 (6)	[摘花] 頂芽中心花満開時に人工授粉し、 人工授粉翌日及びその 2~3 日 後 ; 60, 150 倍 ; 立木全面散布または枝別散布 対) 石灰硫黄合剤 100 倍	継	継) ・ 成分未公開 ・ 効果の確認
6. MPL-30 水和 既知化合物A 38% 既知化合物B 36% 既知化合物C 22% [丸尾カルシウム]	リンゴ	適用性 新 規	青森りんご試 岩手農研 宮城農総研 秋田果試 福島果試 長野果試 長野南信農試 (7)	[摘花] 頂芽中心花満開時に人工授粉し、 人工授粉翌日及びその 2~3 日 後 ; 75, 200 倍 ; 立木全面散布または枝別散布 対) 石灰硫黄合剤 100 倍	継	継) ・ 成分未公開 ・ 効果の確認

B. 生育調節剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 :薬量g・mL<水量L>/10a ;処理方法等	判 定	内 容
7. PDJ 液 プロビトロジャスミン 5% [日本ゼン]]	リンゴ (ふじ)	適用性 継 続	福島果試 富山農技果試 長野果試 (3)	[果実の着色促進] ①収穫予定30日前 ②収穫予定20日前 ; 500倍 (展着剤加用) ; 立木全面散布または枝別散布	実・ 継	実) [リンゴ(ふじ、つがる): 果実 の着色促進] ・収穫予定 30~25 日前 ・500 倍 ・立木全面散布 (継) ・果実品質への影響について
	リンゴ (紅玉)	適用性 新 規	長野果試 (1)	[果実の着色促進] ①収穫予定30日前 ②収穫予定20日前 ; 500倍 (展着剤加用) ; 立木全面散布または枝別散布	継	(継) ・効果の確認
	リンゴ (シナスイ -ト)	適用性 新 規	長野果試 (1)	[果実の着色促進] ①収穫予定30日前 ②収穫予定20日前 ; 500倍 (展着剤加用) ; 立木全面散布または枝別散布	継	(継) ・効果の確認
8. RIC-12 水溶 クエン酸+リンゴ 酸カルシウム Cao 22.25% [ロイヤル インダストリーズ]	リンゴ (つが る)	適用性 継 続	青森りんご試 岩手農研 秋田果試 長野果試 (4)	[油上がり防止] ①6/中→7/中→下→8/中→下 3 回散布 ; 500倍 ②5/中→6/上→6/中→7/上→ 7/中→下→8/中→下 5 回散布 ; 1000倍 ; 散布	継	(継) ・効果の確認
9. BA 液 ベンジルメチルアミン 3% [クミアイ化学工業]	リンゴ	適用性 継 続 (自主)	長野果試(3) (3)	[苗木側芽発生促進] ①新梢伸長時 3 回散布 ②新梢伸長時 5 回散布 ; 100倍または50倍 ; 散布 (先端部または伸長部) 対) 100倍または50倍 1 回散布	実・ 継	ー従来通りー (複数回散布は継続) 実) [リンゴ: 苗木側芽発生促進] ・新梢伸長時 50~100 倍 1 回散布 立木全面散布 [高接1年枝 側芽発生促進] ・伸長旺盛期 (6月上旬以降) 50~100 倍 1 回散布 立木全面散布 (継) ・複数回散布での効果の確認
	リンゴ	薬 害 (自主)	長野果試(2) (2)	[苗木側芽発生促進] ①新梢伸長時 3 回散布 ②新梢伸長時 5 回散布 ; 25倍 ; 散布 (先端部または伸長部)		
10. ジクロルプロップ 液 ジクロルプロップ 4.5% [日産化学工業、ハイエ ルプロップサイエンス]	リンゴ	適用性 継 続 (自主)	青森りんご試 岩手農研(2) 山形園試 石川農総研 長野果試 (6)	[収穫前落果防止] 収穫開始予定日の7日前 ; (500), 1000, 1500倍 <300~600L> ; 立木全面散布	実	実) [リンゴ: 収穫前落果防止] ・収穫開始予定日の 25~7 日前 1~2 回散布 2 回散布の場合は 10 日程度間隔 をあける。 ・1000~1500 倍 <300~600L/10a> ・立木全面散布 注) 散布により軟化が起こる場 合があるので、後期落果の少 ない品種には使用しない。 展着剤は加用しない。 散布が遅れると効果が劣る 場合がある。

B. 生育調節剤

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [ねらい] 処理時期 :薬量g・mL<水量L>/10a :処理方法等	判 定	内 容
11. NAC 水和剤 NAC 85% [N イェルロップ サイエンス]	リンゴ	適用性 継 続 (自主)	長野県試 (1)	[摘果] 満開2～3週間後およびその2～3 日後 (2回散布) : 1200倍 : 散布 対) 満開2～3週間後 1回散布 1200倍	実 ・ 継	ー従来通りー (2回処理は継続) 実) [リンゴ(国光、紅玉、旭、祝、ふ じ、むつ、印度、千秋、つがる、ジョ ナゴールド、王林、北斗、さんさ、陽 光、ハッカイン): 摘果] ・満開後2～3週間頃 ・1200倍 ・散布 (継) ・2回処理での効果の確認

日本農薬学会第21回農薬生物活性研究会シンポジウム

日時 : 平成16年4月23日(金) 10:00～17:00

場所 : 東京農業大学校友会館グリーンアカデミーホール(東京都世田谷区桜丘3-9-31)
小田急線経堂駅または千歳船橋駅から徒歩15分

プログラム(講演題目及び講師の一部は変更される可能性があります)

1. *Trichoderma* 属菌によるイネ種子伝染性病害の生物防除と企業化
渡 辺 哲 氏 クミアイ化学工業(株)
2. 新規殺菌剤チアジニルの生物活性の特徴
山 本 好 伸 氏 日本農薬(株)
3. 植物病原糸状菌の侵入器官分化とシグナル伝達
久 保 康 之 氏 京都府立大学
..... 昼 食
4. 食虫植物ハエトリソウの化学防御物質ブルンバギンとその作用機構
高 田 晃 氏 慶応義塾大学
5. ジノテフランのカメムシ類に対する吸汁阻害
桐 谷 幸 生 氏 三井化学(株)
6. SU抵抗性雑草の簡易検定法
濱 村 謙史朗 氏 (財)日本植物調節剤研究協会
7. ブラシノステロイドの作用機構と受容体
浅 見 忠 男 氏 (独)理化学研究所

参加費 : 一般 ¥3,000- 学生 ¥1,000- (当日受付, 講演要旨集代金を含む)

連絡先 : 〒243-0034 厚木市船子1737 東京農業大学農学部農学科植物保護学研究室
シンポジウム事務局 根岸寛光 Tel:046-270-6498, E:negishi@nodai.ac.jp